令和6年度 兵庫県立松陽高等学校(全日制課程)学校自己評価

年度 努力事項 (評価項目)	実践目標	評価内容	R6 活動評価	来年度の改善方策
基本的生活習慣 基本確立させ、改善 ・を図る。	全教職員の 意思統一 が図られた生徒指導 を実践する。	生徒指導(基本的生活習慣の確立)について、指導部会や研修会等 を実施し、共通理解が図られた生徒指導が実施されている。	・毎週の生徒指導部会の議事録を全職員で共有している。また、始業式や終業式等で生徒指導上の注意を全校生の前で行い、生徒指導 上の基準を周知しており、共通理解を得ている。	・学年、教員間で指導の差がないように、より一層明文化、情報共有に努め、共通理解を図っていく・生徒対応や保護者対応における課題を事あるごとに明示し、研修を図る。
		2 いじめ問題に対して組織的な対応ができている。	・いじめアンケートに基づき早急な対応ができ、いじめ対応委員会を機能的に開催することができた。	 ・些細なことでも生徒情報をオープンにし、教員一人で抱え込むことがないよう、組織的に対応する。 ・いじめアンケートや生徒の日常の様子の観察等により、いじめの未然防止、早期発見に努める。
	学校と 家庭との連携 強化が図られた指導 を実践する。	3 学校HP、学校新聞、学年便り等、学校の教育活動や方針について 情報発信がなされている。	・今年度は入学者のアンケートから、保護者の来校が見込める10月の授業参観日に中学生対象の学校説明会を実施した。 ・オープンハイスクールや入学時に商業についての説明を丁寧にしてきたことで、商業科の内容を伝えることができた。上級学年については、目的意識が高まらず、学ぶ意欲が低かった。 ・丁寧な家庭連絡を心がけるとともに、学年通信を発行し、学校や学年の状況、行事予定等の情報発信を積極的におこなうことができた。学年通信を発行し、学校や学年の状況、行事予定等の情報発信を積極的に行い、保護者の理解と協力を得る。またClassiでの保護者連絡も活用していくことができ効果的であった。。	・HPの更新の方法をシステム化し、担当教員が正確な情報をさらに迅速に公開できるよう対応する。 ・保護者への配信メールを効果的に活用し、学校の情報が正確に伝わるようにする。
		家庭連絡や家庭訪問、PTA活動を通して、保護者との情報交換や 意志の疎通を図り、教育活動や行事で保護者との協働体制が確立さ れている。	・松陽祭・体育大会ともに保護者の参加を大幅に緩和したことにより、PTAとの連携が図れた。 ・主に第3学年を中心に、進路説明会や進路ガイダンスの実施、自宅でも家族と進路について考えられるよう、クラウド上で情報を共 有できる仕組みづくりを行った。それにより、生徒・保護者・教員間で必要な情報を以前より入手・理解しやすくなった。	・家庭連絡や家庭訪問等で、学年や部、学科との連携を深めることができている。PTA活動も、保護者が積極的に関わって いる。継続していきたい。
	生徒の マナーや規 律・規範意識の高揚 を図る。	教育活動全般を通じて、マナーや規律などを守る取り組みや、立ち 番指導などを通じて、通学マナーを向上させるための取組が行われ ている。	生徒会および生徒指導部教員・専門部教員で下校立ち番を行い、課題となっている下校マナーを指導している。また、遅刻指導に関しては、個人個人の事情に合わせて行っており、成果を上げている。	・イエローカード指導や立ち番指導、身だしなみマナー向上プロジェクト等を活用し、粘り強く指導していく。
		6 生徒のマナーや規範意識を高めるため、家庭や関係機関と連携した 取り組みが行われている。	 PTAの協力のもと年間通して数回の立ち番指導を行っている。 通学カバンの自由化等についてPTAの方から意見を伺うなどして在校生徒の規範意識や学校に対する気持ちが理解できた。 	・問題が起きた時だけでなく、良いことも家庭に連絡することで、家庭との信頼関係を築く。 ・必要があれば、躊躇することなく学警連系や関係機関、PTAの協力を得ながら指導していく。
分かる授業、楽開 し、 基礎学力の 定着 を図る。	分かる授業、楽しい 授業をするために、 学習指導の工夫・改善 に努める。	7 7 取り入れICT機器を活用する,など工夫・改善がなされている。	生徒のBYOD端末を利用した教科指導は多くの教員が実施しており、効果をあげている。	・教員一人ひとりの努力により、授業においてBYODが適宜活用されている。ICTリーダー等を通じて、活用方法を集約し、体でより一層効果的に活用していきたい。
		8 一般公開も含めた授業公開が、各教科において実施されている。	・生徒が時間を厳守し、授業に集中する環境をつくる。公開授業週間を設定し、複数の目で授業中の生徒の様子を見守ることができ、 指導力向上に役立っている。	「教員の指導力向上」「授業にふさわしい環境づくり」の双方の観点から、引き続き公開授業を実施したい。
		9 校内研修を実施したり、校外研修会に参加するなど、学習方法や教 科指導の工夫改善が図られている。	・外部機関から講師を招き学力向上のためのヒントを得たことにより、教科指導にも工夫されることが多く見られた。	・引き続き、教員研修や情報交換によるより良い授業づくりにも取り組みたい。
	多様な学習指導と適 切な 課題や補習、家 産学者の習慣化 を図	10 個に応じた多様な学習指導が実施されている。	・外部試験(基礎力診断テスト)に対する事前学習会や長期休み中の希望者補習など、主体的に学びに向かう姿勢の定着を目的とした 取り組みを学年と連携して実施した。学校全体として以前よりも学習に対する意欲が高まっていることは感じられるが、課題が残る生 徒も見受けられる。 ・教員 2 人態勢で基礎科目を実施、商業科目の検定でも成果を上げることができた。 ・商業科においては、1年生は積極的に取り組み、成果を上げたが、上級学年は検定を受けにも来ないといった生徒が多く、資格取得 の意義について改めて説明する必要がある。	・継続的な取り組みによって、生徒全員が自己実現に向けて学び続ける姿勢を持てるように指導していきたい。
		課題や補習を通して、家庭学習の習慣化や基礎学力の定着、資格取得につなげている。	・家庭科技術検定1級およびプレゼンテーション作成検定1級の2種目を取得した生徒が1名いた。	・目標を持たせた個に応じた指導を継続するとともに組織的に取り組むことによって、生徒全員が自己実現に向けて学び制勢を持てるように指導していきたい。
	生徒の 興味・関心・ 進路に応じた教育活 動を展開する。	12 総合的な探究(学習)の時間では、「生きる力」「キャリア教育」 を意識した教育が行われている。	 ・商業科の課題研究では、クラウドファンディングによるモニュメントの設置や、地域での店舗出店など、地域と関わる取り組みを実施した。クラウドファンディングでは、目標額に達成するために様々な広報活動を行い、結果を出すことができた。販売では、仕入れから販売まで行い、たくさんの方に商品を買ってもらうことができた。途中の段階でもっと意欲的に活動ができるようにする必要がある。 	・専門学科を中心に、外部試験のスコアや資格を活用した入試へのチャレンジや、課題研究や探究学習の成果を入試につた うなカリキュラムの計画を他部署との協働を通して行いながら、生徒自らが望む、自己の能力を最大限生かしたキャリア引 法を探っていきたい。
		生徒の進路希望に応じたカリキュラムや多様な選択科目が設定されている。	・進路指導部を中心に報告・連絡・相談を密に行い、生徒一人ひとりに必要な支援につなげた。加えて、HR活動や講演会を通じて、生徒の人権や能力・特性を尊重したキャリア実現における考え方や学び方等への理解促進を図った。 ・道路指導体制の充実に向け、進路指導部内教職員における業務分担の明確化と業務内容の整理を行い、中・長期的進路指導方針を固め、概ね、計画通りに業務を進めることができた。	 今後の課題として、高校3年間を通した体系的な進路指導計画・実行により、さらなるキャリア教育の充実を図りたい。 第1学年、第2学年の生徒が、自己のキャリア実現に向けて、効果的に進路指導室に足を運ぶ仕組みづくりと、進路情報が容易にできるよう、情報資源の充実を目指したい。 家庭科技術検定取得に向け、今後も上級受検希望者がいる場合に備えたカリキュラムを編成していきたい。
		14 地域の人材や素材を活用した特色ある授業の取組が行われている。	・生徒会生徒は積極的にボランティア活動に参加できている。また、松陽祭や地域活動(チャリティーコンサート・高砂緑日・アオハル祭・曽根交流センター竣工式)で太鼓や傘のしゃんしゃん踊りを披露した。 ・課題研究では、今年度は市役所政策部経営企画室と連携し、高砂市のまちづくりについて研究を進めた。地域の方々とのクッキング 教室、フトドライブ、高砂市のPR動画の作成、子育て世代との交流等を通じて、「住み続けられるまちづくり」について地域ととも に考える機会を設けることができた。	・今後も効果的な取組として、さらに内容を精査し継続していきたい。
望ましい人間関係を集合を集合を生命をときを発言をときをを 守らい 安全な学校 環境 をある。	生徒一人ひとりに居 場所があり、温かい 人間関係が築ける学 教経営 を行う。	クラスの中で、他人を馬鹿にしたり、からかったりせず、互いを認 め合う好ましい人間関係が築かれている。	・いじめアンケートや普段の授業の様子からクラスや部活動での対人関係を素早く把握して、特別支援委員会やいじめ対応委員会を招集するなど早めの対応をすることができた。	 拡大学年団を積極的に活用するとともに多くの目で授業やクラスの雰囲気を感じ取れるより積極的な関りが必要である。 人権教育のさらなる推進 他者を大切にする心を育むとともに、社会や組織に貢献する機会を増やし自己有用感を持たせる。
		16 生徒の個人面談や日頃の声かけ指導等ができている。	・面談週間を大いに活用するとともに普段からの声掛けができていた。	 各学期ごとの面談週間を重要視するとともに、日頃の声掛けで得られた生徒情報を学年会や生徒指導部会などで共有し、のある学校を目指していく。
	防災教育、安全教育 の充実を図る。	17 避難訓練や交通ルールを遵守する指導等、参加型・体験的な教育活動が実施されている。	・昨年度よりも避難訓練や交通安全教室での生徒の観察する態度が良くなってきた。	・より疑似体験に近いものを間近で学ぶことができる要素を来年度は取り入れていく。
		地域の関係機関や外部講師を活用して、生徒の防災意識、安全意識の高揚が図られている。	・消防署との連携での避難訓練は効果的であった。	・総合的な探究とも関連させながら、講演会等充実させていく。
	人権教育 を充実させ、人権意識の高揚を図る。	19 人権教育が3年間を見通した年間指導計画に基づき、計画的に実施されている。	・今年度も計画的な運営がされていた。	生徒の実態も考慮していきながら、柔軟に内容を精査していく。
		20 職員研修や講演会や映画会等を通して、生徒・職員の人権意識を高める取組が行われている。	・学校現場で率先して人権教育に携わった講師を招聘でき、生徒の実情に合わせた講演となり、良い取り組みであった。	・生徒の実態も考慮していきながら、柔軟に内容を精査していく。
	•	学校関係者評価委員会からの提言		

・生徒の読書音頃の少なさか顕者であるが、PTA活動とも連携して図書館機能の活性化を図ってはどうか。・生徒によっては精神的に厳しい生徒もいると聞いているがPTAが何らかの形で対応できる体制は学校にあるのか。